

コンセプト 共用階段 × 路地

アパートやマンションの共用階段は移動するための場所で、何もない無機質な空間が広がる。住宅販売広告を見ると、エントランスや間取りのデザインに注目を集めるが、共用階段は暮らしを豊かにする場所としてデザインされることは少ない。また、エレベーターが標準化した現代において、利用される機会も少ない。そこで、暮らす人々が共用階段を利用することで、思わず愉快的な気持ちになる空間を提案できないか考えた。階段と同じように移動するためにある「道」に目を向けてみる。

密集市街地に多く見られた路地と呼ばれる道は、住民の交流が生まれるちょっとした広場のような場所であった。住民が自由に立ち止まったり、雑談したり、子供の遊び場としても機能していた。しかし、道幅の狭さが原因となる災害のリスクから、失われつつある日本の風景である。共同住宅の共用階段というヒューマンスケールの立体的移動空間に、路地が持つ普遍的な魅力を取り入れることで、現在の私たちの暮らしにかつてあった人々の交流や賑わいを生み出す愉快的共用階段「快段路地」を提案する。

住まいの共用階段が愉快的な場所になる3つの仕掛け

仕掛け1

イエ型快段ファニチャー

路地が人々の交流の場となるために欠かせないベンチやテーブルを、イエ型フレームで構成した。ひとつ屋根の下で、住民同士の交流が誘発されるとともに、通りに面した家々がどことなく路地のような懐かしさを連想させる。

仕掛け2

ケン・ケン・バ快段照明

路地は、子供が安全に遊べる場所でもあった。道遊びのひとつである「ケン・ケン・バ」をモチーフにした○△□の連なりによる階段照明は、人々の自由な活動を受容する灯りとなるとともに各フロアを示すサインとして機能する。

仕掛け3

快段広告塔

近年、団地などでは空室を地域の交流拠点として活用する取り組みが進んでいる。人々が佇み、賑わう階段室はひとつの広告塔の役割を担い、各室で行われる地域活動に人々を誘い入れる。

